



平成21年合同植樹祭

平成21年3月7日(土)、植樹祭としては7年ぶりの晴天のもと、九州森林管理局・熊本森林管理署・熊本県・熊本市主催の平成21年合同植樹祭が、熊本市貢町の小萩国有林において、平成21年国土緑化運動(スローガン「広げよう 緑は地球の宝物」)の実施に合わせ、一般参加者や来賓等約250人の参加により開催されました。

今回の植樹祭は、「美しい森林づくり推進国民運動」の一環として、地域住民等多くの方に森林に対する理解や関心を深めてもらうことを目的に実施されました。開会式典では、津元局長が「国土保全や地球温暖化防止に貢献する森林の役割への期待が高まっています。このような中、昨年、九州7県と『九州の森林づくりに



津元局長

関する共同宣言』の調印を行い、「九州はひとつ」の理念のもと各県と連携し、森林整備や森林環境教育の推進、また、九州森林の日の創設を行ったところです。本日の植樹祭を契機に、森林づくりに対して皆様の一層のご理解をいただきたい」とあいさつ。つづいて熊本県議会議長代理で出席された池田和貴県議会議員から「議会としても森林と人との共生の気運を一層盛り上げ、水とみどりの財産づくりに積極的に取り組んで参りたい」と祝辞がありました。また、式典では、長年にわたり国有林野の保護管理や植樹祭をはじめ各種イベントにボランティアで協力いただいているNPO法人災害通信ネットワークの橋柿正興理事長に、九州森林管理局長から感謝状が贈呈されました。

つづいて、「未来の地球環境への提言」と題して、熊本市立西里小学校と松尾西小学校の児童が緑に親しむ



橋柿理事長へ感謝状



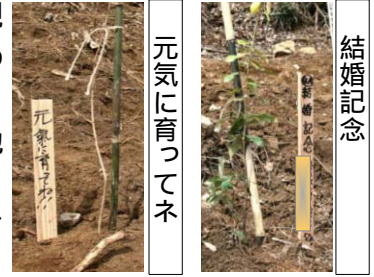
発表する西里小児童



発表する松尾西小児童

活動の発表を行いました。まず、西里小の児童が「道路清掃のボランティアで集めた落ち葉で堆肥を作り学校で花を作っている。私達の宝物である地球を守るため、緑に親しみ・ふやす活動をこれからも続けていきたい」と、また、松尾西小の児童は「これまで手入れがされていなかった学校林を整備するために、私達に何が出来るかをもっと学習していきたい」と、それぞれ未来の地球環境を守る取り組みや決意を力強く発表しました。

式典終了後、来賓などの代表者が記念植樹を行い、参加者全員がヤマ



二人で仲良く植樹



願いを込めて

ザクラ、イロハモミジ、クリ、イチイガシなど1,000本の広葉樹を1本1本大事に植樹し、最後に「元気に育ってネ」「緑で地球を救おう」など森林や環境への思いや願いを書いた標示板を立て、無事植樹祭を終了しました。

見事! 4年連続の選定

平成21年度技術開発 重点課題

林野庁長官が示す、平成21年度の技術開発に係る重点課題に、九州森林管理局の応募課題が見事4年連続で選定されました。実施に当たっては、林野庁の技術開発部会等の意見を踏まえ次のとおり実施することとしています。

課題名: 高性能林業機械・コンテナ苗を活用した低コスト育林に向けた実証試験

【試験地の林況】

樹種	スギ	標高(m)	160
林齢	64	傾斜(度)	15
胸高直径(cm)	28	方位	北西
樹高(m)	22	下層植生	
haあたり本数(本/ha)	1,000	ヤブミョウガ他	
材積(m ³ /ha)	640		

開発期間:平成21年度～平成26年度

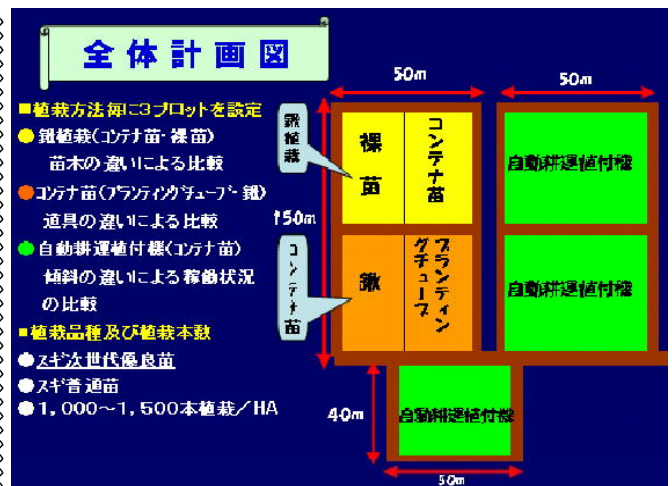
開発箇所:宮崎森林管理署去川国有林256㍿林小班

担当部署:森林技術センター

共同研究機関:森林総合研究所、林木育種センター九州育種場

現状と問題点

木材価格の低迷及び林業就業者が減少するとともに林業労働者の高齢化が進んでいる現状において、森林整備を円滑に推進していくためには、林業経営における採算性を向上させることが必要であり、労働強度を軽減させるとともにトータルコストの縮減が緊急かつ重要な課題となっている。



この方策として、低コスト路網の整備と高性能林業機械の活用を軸とした低コストかつ高効率の作業システムの構築が重要である。

このような中で、これまでの育林作業における労働強度の軽減化、かつ低コスト化については、高成長苗の生産、大苗の植栽、ヘキサチューブの活用による下刈の軽減など個々の技術開発は行われてきたものの、高性能林業機械等を活用した抜本的な低コスト化への対応はなされていない。このため、高性能林業機械及びコンテナ苗を活用して、安全かつ労働強度の軽減と高効率化された育林システムを確立し、林業経営の採算性の向上に取り組む必要がある。

開発目的(数値目標)

高性能林業機械(ロングリーチグラブブル・ブ

ッシュカッター、自動耕運植付機)の活用による労働強度が軽減された省力化
 コンテナ苗を活用した省力化

開発方法

1. 試験地面積：4.00ha (伐採・更新1.86ha)
2. 壊れにくい作業路を活用した伐採・搬出
3. 更新

地拵：ロングリーチグラップルの活用

植付：スギ1,000本～1,500本 / ha 植栽コンテナ苗(自動耕運植付機、プランティングチューブ、鋤)裸苗(鋤)

4. 保育：下刈

自動耕運植付植栽区はロングリーチグラップル(ブッシュカッター)の活用

自動耕運植付機の活用により雑草木の再生を抑制し下刈回数を削減

プランティングチューブ植栽区及び鋤植栽区は坪刈、23年度(2年目)・24年度(3年目)に実施

5. プロット設定

自動耕運植付機植栽区(コンテナ苗)

プランティングチューブ植栽区・鋤植栽区(コンテナ苗)

鋤植栽区(裸苗)

6. 調査内容

自動耕運植付機の実用化調査

ブッシュカッターの稼働状況調査

植付工期調査(プランティングチューブ、鋤)

コンテナ苗活着率調査



自動耕運植付機



プランティングチューブ



造林木成長量調査
 伐採から保育までの作業因子及び形態の把握・分析

7. 成果の活用策

高効率で安全かつ労働強度が軽減された高性能林業機械を低コスト育林作業用として活用

活着率の高いコンテナ苗を高効率化された更新用苗木として活用



コンテナ苗

監物台樹木園から「おはよう日本」

NHKが朝のニュースで紹介

平成21年3月31日(火)、NHKの朝のニュース「おはよう日本」で、熊本城内の「監物台樹木園」の様子が、熊本の天気とともに放送されました。



撮影の様子

放送は、午前6時40分と7時58分の2回で、朝の冷気が漂う中、今年は長く満開の状況を保つ桜や見頃のチューリップの花などが紹介されました。



監物台樹木園

なお、樹木園は、3月20日から31日まで夜間開園され、大勢の入場者で賑わいました。

旬の花



ベニトキワマンサク

熊本市

第3回

九州森林技術開発協議会

を開催!

平成21年2月18日、第3回九州森林技術開発協議会が、九州森林管理局2階大会議室において開催され、当局の職員をはじめ、森林総合研究所九州支所、林木育種センター九州育種場の研究担当者31名が出席し、技術開発に係る情報や意見交換を行いました。

第3回となる今回の協議会は、平成18年3月9日以来3年ぶりに開催されたことから、まず計画部長が、地球温暖化防止森林吸収源対策の推進や美しい森林づくりの推進及び九州からの日本林業再生についての取り組みなど、最近の九州森林管理局の取り組み状況について説明しました。

その後、森林技術センター所



森林技術センターの取り組みを説明する岸川所長

長が、現在実施中の同センターの技術開発の現況及び平成21年度重点課題(案)などの説明を、また、森林総研九州支所及び林木育種セ



九州森林技術開発協議会

ンター九州育種場から、研究成果等が紹介されました。また、当局から両機関に対して、技術開発課題に係る調査方法などの指導や助言等について協力要請を行い、次回の会議に向けて調整・検討していくこととなりました。

九州森林技術開発協議会

九州森林技術開発協議会は、平成16年3月、国有林野事業技術開発実施要綱の一部改正により全国の5ブロック技術開発連絡協議会が廃止されたことに伴い、その後継会議として、森林総合研究所九州支所及び林木育種センター九州育種場、九州森林管理局の3者で構成し発足。

会の運営は、3者で「実施要領」を定め、形式にとらわれず森林・林業に関する幅広い技術の情報交換や、国の行政ニーズ・要望に沿った試験などにも対応していくとして、定期的に会議やセミナー等を開催している。

訂正とお詫び

2月5日付け第45号の「美しい森林づくり推進国民運動キャッチフレーズ」に、誤りがありました。次のとおり訂正しお詫びいたします。

誤 美しい国
正 美しい森

編集後記

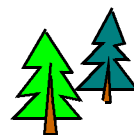
このたび、4月1日付けで、森林技術センター勤務を含め6年間の技術開発業務から自然再生業務担当へ異動。その間、当局の技術開発課題も木材生産機能重視から公益的機能重視へ、更に公益的機能重視+低コスト化を目指すものへと、時代の要請に応じて変化してきた。

一方、平成16年度から、林野庁長官が示す技術開発に係る重点課題として各局が応募、競争型が導入され、計画から実施段階まで外部評価を受けることとなった。その重点課題は21年度で早6年。九州局は18年度から21年度まで4年連続で選定された。21年度の重点課題は、本号で紹介のとおり、高性能林業機械とコンテナ苗を活用した低コスト育林を目指すものであり、成果が大いに期待されている。

企画官(自然再生担当) 吉田 祥一



伝えたい木の文化、残したい美しい森
「美しい森林づくり推進国民運動キャッチフレーズ」



紙一枚からできる地球への思いやり

~九州森林管理局では地球温暖化防止のため、再生可能な間伐材製品利用を推進しています~